

【02】「分析的音楽療法の世界」

【講師】小宮 暖

【要旨】

分析的音楽療法とは、イギリスの音楽療法士メアリー・プリーストリーによって70年代に創始された音楽療法のアプローチで、心理療法的な音楽療法としては欧米では主流となっています。クライアントは自らの人生における諸問題やテーマについて取り組み、自己の成長の妨げとなっている要因、特に無意識的な要因をセラピストと一緒に探ることができます。フロイトが始めて以来さまざまな流派に枝分かれしつつ発展してきた精神分析を理論的な支柱とし、そこに自由即興を組み合わせる方法です。演奏技術を必要としない種々の楽器によってクライアントとセラピストは自由に即興しますが、即興といっても音楽的である必要はなく、意図的に何かを表現する必要もなく、誰にでも出来るものです。楽器の選択や配置・扱い方にすでに何かが象徴的に現れていたり、音や音楽にその人の無意識の在り方が意図せずとも自然に映し出されてくるので、即興の後、演奏に何が現れていたのか、扱っている問題やテーマと関連性を考えながら一緒に会話の中で洞察を深めます。

本講座では、まずアプローチの概要をお伝えした上で、実際の症例の音源を通じて、精神力動的な現象がどのように即興に現れるのか、精神力動的な視点からクライアントのさまざまな表現を聴くとはどういうことなのかについて、本学会の今年のテーマである「Listen」とも関連づけてお伝えできればと思います

【プロフィール】

桐朋学園大学音楽科演奏学科ピアノ科卒業

ニューヨーク大学大学院音楽療法科修士課程修了

ニューヨーク Analytical Music Therapy Institute にて分析的音楽療法の資格取得

米国認定音楽療法士(MT-BC)

分析的音楽療法士(AMT)

2005年の開業以来20年間、分析的音楽療法の部屋〈音の庭〉(横浜)にて一般の方、音楽家、音楽療法士の方を対象にセッションを提供。

2011年より日本で唯一の分析的音楽療法士養成機関であるドイツ音楽療法センターにて療法士の養成に携わっている。

過去に洗足音楽大学、現在は桐朋学園大学、国立音楽大学にて講師。桐朋学園では、音楽家の心身の健康をテーマにした音楽療法や体育講義の授業を担当。

著書:『芸術家のための分析的音楽療法』

訳書:ケネス・ブルシア著 『音楽心理療法の力動』